

踏 み 跡 < My mountains >

道志	穴路峠越え(朝日岳を目指したのだが)	No.080
----	--------------------	--------

本来ならばこの山行は、前回の姥子山の単独行から帰ってすぐその晩に恩田・吉野・石関と新宿駅で合流し、夜行で出かける予定だった。ところが、その晩（2月18日）新宿駅に降り立った私は約束の時刻を過ぎても誰も来ないので戸惑った。石関に電話してみたら、その真相が明らかになった。鶏飼のお父さんが亡くなったため「山行は延期」となったとのことだった。恩田といっしょに弔問したように憶えている。そして、その一週間後この山行は実現した。メンバーは一部入れ替わり、恩田・吉野・泉田・小林。

昭和42年2月26日

最終列車に立川から乗り、新宿から来る三人と車内で合流。泉田君は登山経験が少ない割には強心臓で、もうすやすや寝ている。

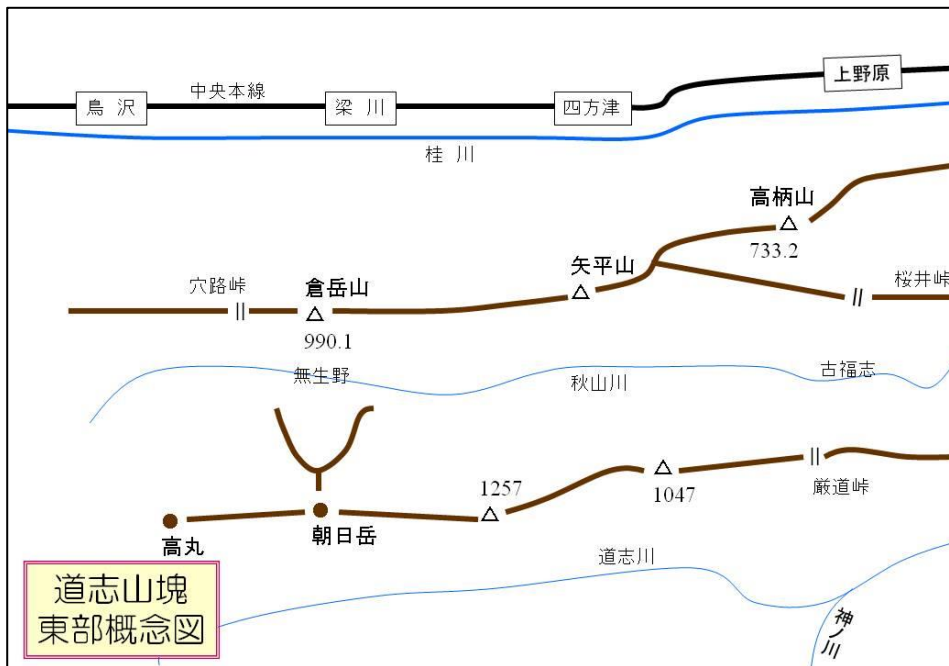
鳥沢1時56分、駅舎の中で一時間ほどの仮眠ののち朝食をとり、3時に出発。

懐中電灯を点けて、眠気覚ましに歌を歌いながら穴路峠への沢沿いの小道を詰めたのだが、暗闇で峠直下の小尾根の取り付けがよくわからず、おまけに眠くて眠くてたまらない。道端で明るくなるのを待とうと腰を下ろしたまでは良かったが、その内に全員座ったままで居眠り。天気が崩れ気味といえども二月の明け方、その寒さもいとわず寝てしまおうというのだから我ながらたいしたものだ。

やがて明るくなると道は容易に見つかり、6時50分穴路峠(840m)に到着。峠から秋山川の奥の無生野という集落に下り、真南の朝日岳(赤鞍ヶ岳)を目指して棚の入沢への道をとった。

本来ならば朝日岳が見える筈だが、全く見えない。やがて重苦しかった空からは霰が落ち始め、雪となり風も伴い始めた。氷瀑の見える河原でポンチョを被ってしばらく様子を見ることにしたが、止む気配はない。朝日岳は諦めようということになり、河原でポンチョを張って食事。

雪はいつの間にか雨に変わり、我々は無残にも下山。とは言えども、このままスイツと帰っても仕方がないので、



で、秋山川に沿って下り古福志の東側の櫻井という集落から櫻井峠を越えて田野入へ、海拔350m程の小さな峠を越えて桂川南岸の鶴島という集落に出た。桂川を渡り上野原駅に着くと15時15分。

一日かけて、桂川から穴路峠を越えて秋山川の谷に下り、ふたつの峠を越えて桂川にまた戻ってきただけの旅だったが、足が痛くなるほど歩いた。山をひとつ越えると、

そこには別な空気別の国がある。高い山に登らなくても、谷を歩き峠を越えるだけでも旅は面白い。

駅前でラーメンを食べて、16時11分発の高尾行に乗った。

以上

(修正・更新:2023年11月)